

～「ほんまもん」の執筆および寄贈活動の紹介～

最近、医療不信や医療トラブルなど暗いニュースがとても多く、残念でなりません。もちろん知識や技術が未熟であるために生じる場合もありますが、そのほとんどは人間性の欠如に起因しています。「ほんまもん」の医療とは何でしょう？私は、「医療＝医学＋人間学」だと考えています。専門職である限り職種を問わず「知識」や「技術」を身に付けるのは当然です。しかしながら、それだけでは不十分であり仕事はうまく行きません。プラス「人間学」の学びを積み重ねることで、患者さんへ提供できる医療レベルが格段に向上します。すると、患者さんの満足度が高くなり真の信頼関係を築くことができます。

「医療不信などという言葉を書くことのない明るい未来を若い医療人に託したい！」という思いを抱いていました。ただ、今の教育・研修システムでは残念ながら「人間学」を学ぶ機会がほとんどありません。また、せっかく個人的に「人間学」を学んでいる方でも仕事に活かし切れていない場合もあります。そこで、実際に「人間学」を自分の「仕事」にどのようにリンクさせればよいのかを、地域医療で悪戦苦闘した経験、多くの言葉や話題も交えながら執筆いたしました。

何かひとつでも読者の心に残り、医療人として「ほんまもんへの道」を歩んで行くきっかけになれば幸いです。私の「実学」は決して難しくありませんので、年齢や職種を問わず気軽にお読みいただき、生産的なご意見を頂戴することで私もさらに精進いたします。

全国の医療系大学・学校・病院などを中心に約 2,200 冊を寄贈し、大学長・理事長・病院長・看護部長・学校長などより多くの共感・感動・激励メッセージをいただきました。現在、医療人を志す学生や若い医療人の教育・指導にご活用いただいているそうです。

また、依頼があった医療系大学・学校・病院へ無償で講演に伺っています。

テーマ：「ほんまもんへの道」

【「最初のペンギン」&「知行合一」～「人間学」を「仕事」にリンクさせる～】

講演終了後に、謝金相当額で書籍「ほんまもん」をプレゼントいたします。